

エコアクション21

環境活動レポート

第9版

活動期間：2019年4月1日～2020年3月31日

発行日：2019年6月20日



株式会社 調布清掃

目次

株式会社調布清掃 環境活動レポート第9版

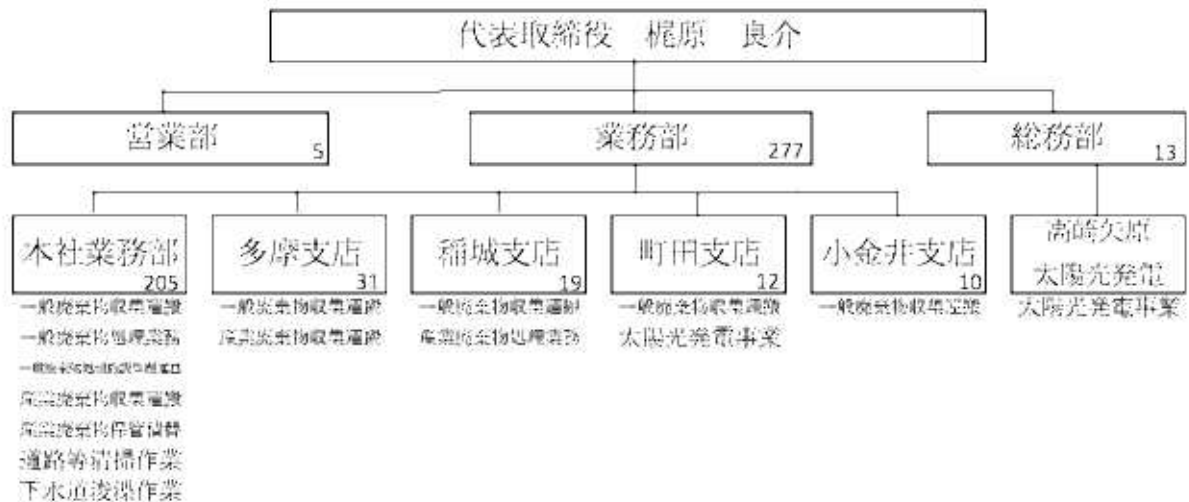
活動期間 2019年4月1日から2020年3月31日

表紙

P1	1 会社概要と認証登録範囲
	1) 事業所名及び代表者名
	2) 所在地
	3) 設立年月日
	4) 資本金
	5) 組織図
	6) 環境管理責任者及び事務局担当者
P2	7) 事業活動の内容
	8) 認証登録範囲
	9) 許可番号
P3	10) 産業廃棄物収集運搬の取扱い許可品目
	11) 産業廃棄物中間処理業の取扱い許可品目
P4	12) 稲城中間処理施設 処理工程
P5	13) 事業規模の推移
	14) 許可設備能力
	① 産業廃棄物保管積替施設
	② 特別管理産業廃棄物保管積替施設
P6	③ 産業廃棄物処分施設
	④ 再生可能エネルギー事業
P7・8	⑤ 廃棄物収集運搬等保有車両
P9	2 環境方針
P10	3 環境目標と環境活動計画
	1) 環境目標
P11	2) 環境活動計画
P12	4 環境目標の実績、環境活動計画の取組結果と評価、次年度の取組内容
	1) 環境目標の実績
P13	2) 環境活動計画の取組み結果と評価、次年度の取組内容
	1 二酸化炭素の削減
	1.1 電力使用量の削減
	1.2 車両燃料の削減（軽油、CNG等）
P14	2 廃棄物排出量の削減
	3 水使用量の削減
	4 低公害車両比較の向上
	5 グリーン購入の拡大
P15	5 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、告訴等の有無
P16	6 代表者に世全体評価と見直しの結果

1 会社概要と認証登録範囲

- 1) 事業所及び代表者名
株式会社 調布清掃 代表取締役 梶原 良介
- 2) 所在地
本社 東京都調布市深大寺東町5-8-1
小金井支店 東京都小金井市東町5-31-20
多摩支店 東京都多摩市和田2008-4
稲城支店 東京都稲城市大丸1481
町田支店 東京都町田市根岸2-25-18
高崎矢原太陽光発電所 群馬県高崎市箕郷町矢原字十二本松2193他5筆
- 3) 設立年月日
昭和39年2月13日 (創業 昭和28年4月)
- 4) 資本金
500万円
- 5) 組織図



6) 環境管理責任者及び事務局担当者連絡先

環境管理責任者		営業部	竹下 秀則
事務局	担当者	総務部	是永 充弘
	連絡先	電話	042 (485) 1166
		FAX	042 (485) 1809
		e-mail	clean@chofu-seiso.co.jp
		URL	http://www.chofu-seiso.co.jp

7) 事業活動の内容

一般廃棄物及び産業廃棄物の収集運搬（積替え・保管含む）
 一般廃棄物処理施設の管理運営業務、産業廃棄物の処分（中間処理）
 道路清掃作業、下水道施設維持管理業務、下水道浚渫作業、太陽発電事業

8) 認証登録範囲

全事業所及び事業活動の範囲

9) 許可番号

一般廃棄物収集運搬業

2020年4月1日現在

許可行政	許可番号	許可の有効期限
調布市	29調環ご発第3610004号	H30.4.1~H32.3.31
小金井市	第118号	H30.4.1~H32.3.31
三鷹市	29三生ご第736号の8-1	H30.4.1~H32.3.31
武蔵野市	第19号	H30.4.1~H32.3.31
狛江市	一廃第7号	H30.4.1~H32.3.31
稲城市	一廃第4号	H30.4.1~H32.3.31
多摩市	29多摩環ご第730号	H30.4.1~H32.3.31
八王子市	第014号	H30.4.1~H32.3.31

許可内容

調布市	厨芥、木くず、繊維くず、事業系可燃、廃油類、動物死体、全国清掃に準ずる一般廃棄物し尿、浄化槽汚泥
小金井市	一般廃棄物（ごみ）
三鷹市	事業系一般廃棄物（紙くず、木くず、厨芥、繊維くず）一般廃棄物（浄化槽汚泥）
武蔵野市	ごみ
狛江市	普通ごみ
稲城市	事業系一般廃棄物
多摩市	事業系一般廃棄物（普通ごみ、し尿、汚泥）産業系一般廃棄物（普通ごみ、粗大ごみ、特定産業廃棄物一般廃棄物）
八王子市	事業系一般廃棄物（厨芥、木くず、紙くず、繊維くず）

産業廃棄物収集運搬業

2020年4月1日現在

許可行政	許可内容	許可番号	許可の年月日・有効期限	優良認定
東京都	保管積替含む	13-10-024029	H28.8.20 R5.8.19	有
神奈川県		1402024029	H28.12.13 R5.12.12	有
茨城県		80024029	H28.12.8 R5.12.1	有
埼玉県		110024029	H28.10.16 R5.10.15	有
山梨県		1900024029	H28.10.23 R5.10.22	有
宮城県		40024029	H30.7.4 R5.7.3	
静岡県		40024029	H31.1.30 R6.1.29	

特別管理産業廃棄物収集運搬業

2020年4月1日現在

許可行政	許可内容	許可番号	許可の年月日・有効期限	優良認定
東京都	保管積替含む	13-67-024029	H29.10.14 R6.10.13	有
埼玉県		1151024029	H23.6.14 R5.6.13	有
横浜市		5650024029	H29.11.1 R6.10.31	有

産業廃棄物処分業

2020年4月1日現在

許可行政	許可内容	許可番号	許可の年月日・有効期限	優良認定
東京都	中間処理	13-20-024029	H30.4.26 R5.4.25	

10) ◆産業廃棄物収集運搬業

許可行政	許可内容	許可番号	許可年月日 有効期限	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	ゴムくず	動植残さ	金属くず	ガラス陶	がれき類	優良基準適合認定
東京都	保管検査含む	13-10-024029	H28.8.20 R5.8.19	●	●	●	*		●	●	●	●		●	●	●	●	●
神奈川県		01402024029	H28.12.13 R5.12.12		●				●	●	●	●	●		●	●	●	●
茨城県		00801024029	H28.12.8 R5.12.1						●							●		●
埼玉県		01101024029	H28.10.16 R5.10.15	●	●	●			●	●	●	●		●	●	●		●
山梨県		01900024029	H28.10.23 R5.10.22	●	●				●						●	●		●
宮城県		0400024029	H30.7.4 R5.7.3		●				●	●	●				●	●		
静岡県		2201024029	H31.1.30 R6.1.29		●				●		●				●	●		

*燃え殻：廃トナーに限る。 *廃油：収集のみ。
*汚泥：廃乾電池に限る

◆特別管理産業廃棄物収集運搬業

許可行政	許可内容	許可番号	許可年月日 有効期限	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	ゴムくず	動植残さ	金属くず	ガラス陶	がれき類	優良基準適合認定
東京都	保管検査含む	13-67-024029	H29.10.14 R6.10.13				●	●										●
横浜市		05650024029	R6.10.31 H29.11.1				●	●										●
埼玉県		01151024029	H28.6.14 R5.6.13				●	*										●

*廃酸（pH2.0以下、廃バッテリーに限る）
*廃アルカリ（pH12.5以上、廃バッテリーに限る）

11) ◆産業廃棄物処分業

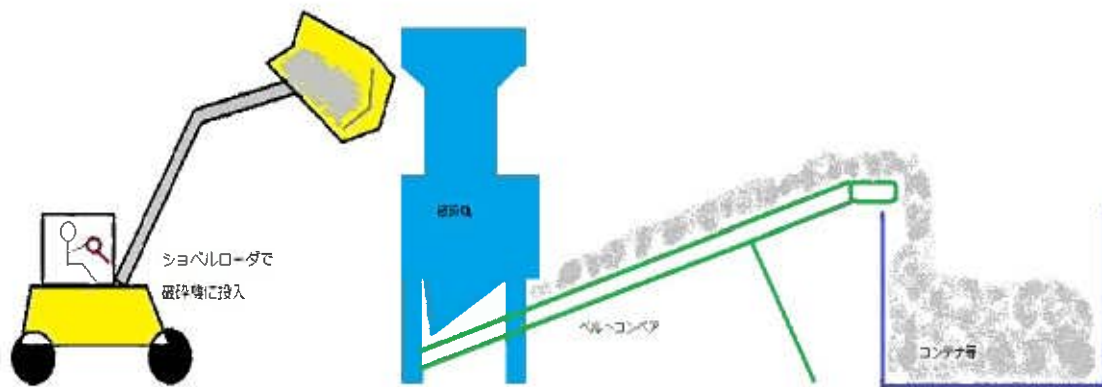
許可行政	区分	許可番号	許可年月日 有効期限	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	ゴムくず	動植残さ	金属くず	ガラス陶	がれき類	優良基準適合認定
東京都	中間処理	13-20-024029	H30.4.26 R5.4.25	溶解液					●	●	●	●			●	●	●	

*溶解液：廃プラスチック類（廃発泡スチロールに限る）

12) 稲城中間処理施設 処理工程

《 破砕機 》

2020年4月1日現在



分別された廃棄物を破砕機に投入 破砕機で破砕 コンベアで流す コンテナ等に保管して搬出

《 溶融機 》

2020年4月1日現在



発泡スチロールを

溶融機で破砕・溶融された破砕が
トレイに排出され、凝固する

圓形になった発泡スチロール
インゴットをフレコン
バックに保管し搬出

13) 事業規模の推移

活動規模		単位	2017年度 2017.4~2018.3	2018年度 2018.4~2019.3	2019年度 2019.4~2020.3
売上処 埋量	運搬 処理	t	52,725	52,619	55,473
			1,367	1,131	1,244
売上高		百万円	2,170	2,307	2,488
従業員		人	261	285	295
床面積		m ²	1,260.81	1,260.81	1,260.81

14) 許可設備能力

① 産業廃棄物保管積替施設

2020年4月1日現在

積替保管施設	種類	最大保管料		保管面積 (容器)
【第二車庫】 東京都調布市 深大寺東町 1-30-17 他3筆 積替保管面積 1,128m ² 最大保管高さ 4.0m	廃プラスチック類 金属くず ガラス・コンクリート 陶磁器くず (いずれも廃家電 リサイクル法対象機器)	560.0	m ³	パイプコンテナ×84個
	廃プラスチック類 (廃ペットボトル)	11.0	m ³	フレコンパック×11個
	金属くず 廃プラスチック類 (いずれも廃バッテリー)	3.8	m ³	パイプコンテナ×1個
	ガラス・コンクリート 陶磁器くず (廃ガラスびん)	3.7	m ³	パイプコンテナ×1個
	木くず	8.1	m ³	8.1m ³ コンテナ×1基
	廃プラスチック類、金属くず、ガ ラス・コンクリート・陶磁器くず (いずれも廃蛍光灯)	1.5	m ³	ドラム缶×5個
	汚泥、金属くず (いずれも廃乾電池)	0.07	m ³	コンテナボックス×1個
	汚泥、金属くず (いずれも廃乾電 池) (水銀使用製品産業廃棄物)	0.12	m ³	ポリ容器×1個
	金属くず	15.3	m ³	8.1m ³ コンテナ各1基・3.6m ³ コンテナ2基
	金属くず、汚泥 廃プラスチック類 (いずれも廃消火器)	0.3	m ³	パイプコンテナ×1個
	廃プラスチック類	8.1	m ³	8.1m ³ コンテナ×1基
	ガラス・コンクリート 陶磁器くず	9.6	m ³	3.6m ³ コンテナ1基 1.5m ³ コンテナ×4基
	廃プラスチック類、金属くず (いずれも廃小型電子機器)	3.6	m ³	3.6m ³ コンテナ×1基
保管料合計	625.19	m ³		

② 特別管理産業廃棄物保管積替施設

積替保管施設	種類	最大保管料		保管面積 (容器)
【第二車庫】 東京都調布市 深大寺東町 1-30-17他3筆 積替保管面積 1,128m ² 最大保管高さ1.6m	廃酸、廃アルカリ、特定 有害産業廃棄物 (いずれ も廃バッテリーに限る)	3.8	m ³	パイプコンテナ
	合計保管料	3.8	m ³	

③ 産業廃棄物処分業施設

施設所在地：東京都稲城市大丸1481番地 調布清掃稲城ヤード

2020年4月1日現在

処分方法	産業廃棄物の種類	単独処理能力	混合処理能力	設置年月日
破砕	廃プラスチック類	4.1 t/日	4.2 t/日	2012年11月30日
	紙くず	3.3 t/日		
	木くず	4.4 t/日		
	繊維くず	3.3 t/日		
	金属くず	4.6 t/日		
	ガラス・コンクリート 陶磁器くず	4.7 t/日		
	がれき類	4.4 t/日		
溶融	廃プラスチック類 発砲スチロールに限る	480kg/日		2012年10月26日

④ 再生可能エネルギー事業

【2020年3月31日現在の状況】

2019年度発電量合計656,869kwh

- ・ 本社屋上発電事業 太陽光発電（全量売電） 東京都調布市深大寺東町5-8-1
モジュール58枚 予定年間発電量 16,583kwh
実績 14,250kwh
- ・ 本社屋上発電事業 太陽光発電（自社使用） 東京都調布市深大寺東町5-8-1
モジュール36枚 予定年間発電量 12,520kwh
実績 13,818kwh
- ・ 本社地熱利用空調 地熱利用ヒートポンプエアコンシステム
年間削減電力 3,946kwh（予定見込）
- ・ 高崎矢原太陽光発電所 発電事業（全量売電）
群馬県高崎市箕郷町矢原字十二本松 2193他5筆
モジュール2,016枚 予定年間発電量 630.075kwh
実績 656,869kwh
- ・ 町田支店発電事業 太陽光発電（余剰売電） 東京都町田市根岸2-25-18
モジュール24枚 予定年間発電量 8,347kwh
実績 5,415kwh

* 本社屋上発電事業は災害時に自社非常用電源としての利用を可能にするために設置しました。

⑤ 廃棄物収集運搬用等保有車両

2020年4月1日現在

車種	積載量	台数	低公害車数
パッカー車	2 t	40 台	
パッカー車	3 t	35 台	CNG10台
プレス車	2 t	4 台	
プレス車	3 t	6 台	
機密文書用ドライバン車	2 t	1 台	
キャブオーバー車	0.35 t	4 台	
キャブオーバー車	1.5 t	1 台	
キャブオーバー車	2 t	11 台	CNG1台
ウイング車	14 t	1 台	
アームロール車	2 t	3 台	
アームロール車	4 t	3 台	
アームロール車	10 t	2 台	
ダンプ車	0.35 t	2 台	
ダンプ車	2 t	9 台	
バキューム車	2 t	2 台	
バキューム車	3 t	2 台	
道路清掃車	2 t	1 台	
高圧洗浄車	3 t	1 台	
吸泥車	3 t	2 台	
給水車	4 t	1 台	
営業車	乗用	17 台	低公害車3台
オートバイ	乗用	2 台	
重機	フォークリフト	11 台	低公害車5台
	ショベルローダー	4 台	
合計		165 台	17台

低公害車：電気自動車・CNG・LPG・ハイブリッド車

2011 年度実績	低公害	16 台	／	車両総数	145 台
2012 年度実績	低公害	17 台	／	車両総数	143 台
2013 年度実績	低公害	17 台	／	車両総数	150 台
2014 年度実績	低公害	15 台	／	車両総数	150 台
2015 年度実績	低公害	16 台	／	車両総数	155 台
2016 年度実績	低公害	15 台	／	車両総数	151 台
2017 年度実績	低公害	15 台	／	車両総数	149 台
2018 年度実績	低公害	19 台	／	車両総数	163 台
2019 年度実績	低公害	17 台	／	車両総数	164 台

廃棄物収集運搬業等に供する運搬車に係る低排出ガス車の導入状況

2020年4月1日現在

排ガスレベル		集計	割合
平成17年	50%低減車	0	0%
平成17年	75%低減車	0	0%
平成17年	Nox10%低減車	0	0%
平成17年	Nox10+PM10%低減車	15	9%
平成17年	PM10%低減車	2	1%
平成19年	50%低減車	1	1%
平成19年	75%低減車	13	8%
平成22年	10%低減車	86	52%
該当なし		47	29%
		164	100%

廃棄物収集運搬業等に供する運搬車に係る低燃費車の導入状況

2020/年4月1日現在

排ガス規制達成状況		集計	割合
平成27年度燃費基準達成車		58	35%
平成27年度燃費基準5%向上達成車		42	26%
平成27年度燃費基準10%向上達成車		8	5%
平成27年度燃費基準25%向上達成車		2	1%
平成32年度燃費基準10%向上達成車		1	1%
平成32年度燃費基準20%以上向上達成車		1	1%
平成32年度燃費基準50%以上向上達成車		2	1%
該当なし		50	30%
		164	100%

☆低排出ガス車・低燃費車導入に対する検討項目と取組み

・低排出ガス基準について

①重量車は2005年度基準以上の採用

②その他車両は2010年度規制適合以上を採用する。

・低燃費基準について

2015年度基準達成車以上を採用する。

2 環境方針

基本理念

当社は「廃棄物の収集運搬」を通して、環境経営を進めることにより、環境にやさしい社会の実現に貢献します。

「資源再生・リサイクル」を拡大・充実して、負荷低減を継続的に実行、循環型社会の実現、地球環境保全に努めます。

行動指針

当社は上に掲げた基本理念に基づき、事業活動における環境への影響を社員全員が理解し、以下の項目につき積極的に取り組みます。

- 1) 国・地方自治体などの環境に関連する規制及び当社が同意したその他の要求事項を遵守し、継続的に汚染防止に努める。
- 2) 地球環境保護のために、省資源・省エネルギー・リサイクル活動を推進します。
 - ① 燃料（軽油、ガソリン、灯油、LPG等）使用料の削減
 - ② 電気使用量・総排水量の削減
 - ③ 太陽光発電システムの導入等による環境貢献
 - ④ 廃棄物排出量の削減
 - ⑤ 低公害車、低燃費車の使用率向上
- 3) 資材等の購入において、積極的にグリーン購入を推進することにより広く環境保全活動に寄与します。合わせて車内で使用するオフィス用品のグリーン購入の推進に努めます。
- 4) 環境方針は、全ての従業員に周知します。

制定日 2012年6月1日

改訂 2018年6月1日

更新確認日 2019年6月1日

株式会社 調布清掃
代表取締役 梶原 良介



CHOFU-SEISO

3 環境目標と環境活動計画

概要 電気使用量と節水は一定の成果がみられました。
車両燃料による二酸化炭素排出量が日立ち全体的には未達成

環境目標	2014年度 2期基準	2016年度 3期基準	2018年度	2019年度		2020年度
	計画基準	計画基準		目標	(結果) 削減率目標値	第4基 目標
1 二酸化炭素 排出量の削減	削減基準 899,067 kg-CO ₂	削減基準 971,391 kg-CO ₂	948,600 kg-CO ₂	955,446 kg-CO ₂	2%増加 975,815 kg-CO ₂	971,391
1.1 電気使用量 の削減 (1)	削減基準 118,157 kwh	削減基準 116,081 kwh	116,306 kwh	115,841 kwh	0.1%削減 115,552 kwh	115,552
1.2 軽油の削減	削減基準 245,884 ℓ	削減基準 268,573 ℓ	254,110 ℓ	266,388 ℓ	5%増加 279,117 ℓ	1台当たり 2300ℓ
1.3 CNGの削減	削減基準 40,705 kg	削減基準 43,461 kg	41,285 kg	41,611 kg	0.1%削減 40,872 kg	1台当たり 3,600kg
2 廃棄物排出量 の削減	削減基準 3,869 kg	削減基準 3,830 kg	4,494 kg	4,449 kg	13%削減 3,904 kg	4,000kg
3 水資源の削減	削減基準 4,013 m ³	削減基準 4,387 m ³	4,270 m ³	4,244 m ³	8%削減 3,922 m ³	3,900m ³
4 低公害車比率 の向上 ①低排出車 ②低燃費車	比率向上基準 16/150 比率10.66% 56.66% 33.33% 低公害車/全車	導入比率向上 155台中 低排出ガス車 114台 (73.5%) 低燃費車 83台 (53.5%)	導入比率向上 163台中 低排出ガス車 113台 (69.3%) 低燃費車 106台 (65.0%)	導入比率向上 導入台数に対して 低排出ガス車 (75%) 低燃費車 (65%)	導入比率向上目標 164台中 低排出ガス車 117台 (71%) 低燃費車 114台 (70%)	導入比率向上 導入台数に対して 低排出ガス車 (75%) 現状維持
5 グリーン購入 の向上拡大 (3) 比率の向上	比率向上基準 グリーン比率 19%	1%上昇 グリーン比率 20.20%	1.9%低下 グリーン比率 20.10%	拡大目標 グリーン比率 22.00%	0.4%低下 グリーン比率 19.70%	22.00%

注(1)購入電力のCO₂排出係数：0.531

出典：平成26年度電気事業者別二酸化炭素排出係数（東京電力）

注(2) 低公害車の定義は以下の通りを基準とする

電気自動車、ハイブリット車、CNG車、LPG車

低排出ガス車・・・平成17年度Nox・PM10%低減重量車

低燃費車・・・平成27年度燃費基準達成車

注意(3)グリーン商品購入額/全購入額×100

全品目(車両以外)への拡大の為に全購買商品の環境選定評価で拡大する。

2) 環境活動計画

項目	施策
1.二酸化炭素の削減	・使用資源の節減に向けた意識強化。
	・電力及び化石燃料使用量の削減
	・低公害車、低燃費車の導入（優良産廃基準採用）
	・太陽光発電、地熱利用、雨水利用の実施検証。
	・グリーン購入の拡大。
1.1電力使用量の削減	・照度見直しから不要照明の消引き。
	・不要照明の消灯の徹底。
	・エアコン温度設定（夏28度、冬20度）の推進
	・省電力機器への変更を検討する。
	・新規機材には省電力製品の積極購入。
1.2軽油の削減	・アイドリングストップの実施。
	・車両タイヤ空気圧管理の実施。
	・エアコン使用の季節制限。
	・空ぶかしなど基本操作の再点検。
	・エコドライブの推奨。
1.2CNGの削減	・アイドリングストップの実施。
	・車両タイヤ空気圧管理の実施。
	・エアコン使用の季節制限。
	・空ぶかしなど基本操作の再点検。
	・エコドライブの推奨。
2.廃棄物排出量の削減	・集計実績の確立中。
	・適正処理への確認。
	・適正分別の強化。
	・リサイクルの推進。
	・再資源化及び再利用への推進。
3.水使用量の削減	・洗車時の節減工夫強化。
	・下水道清掃など業務用水量の調査。
	・配管水漏れチェック。
	・散水など再利用水貯水検討。
	・雨水利用の実行と集計検証。
4.低公害車量比率の向上	・対象環境配慮製品の特定。
	・重機及び危機への選定拡大。
	・環境省優良産廃基準の採用評価も行う。
	・LPG,CNG供給スタンドの拡大調査。
	・エコカー、電気自動車などの情報収集。
5.グリーン購入の拡大	・環境物品選定評価書を採用し分析する。
	・エコマーク製品情報収集。
	・全商品（車両以外）への拡大。
	・選定基準など社内周知の向上。
	・安全を最優先に適材適所を考える。

4 環境目標の実績、環境活動計画の取組み結果と評価、次年度の取組内容

1) 環境目標の実績

○ 目標達成

△ 目標未達成だが、昨年度実績以上の成果

× 目標未達成だが、昨年度実績以上の成果

推進事項	適用期間 (目標)	適用期間 (実績)	評価	原因及び理由	改善施策 (是正処置)	
1.二酸化炭素 排出量の削減 基準値より 1%減	923933 955446 kg-CO2	2.1%増加 975,815 kg-CO2	×	軽油の増加	軽油に特化した監視を 強化する	
1.1二酸化炭素 削減 電力の削減 基準値より 1%減	115,841 kwh	0.1%削減 115,552 kwh	○	予定通りだった	そろそろ限界に近いが、 まだ無駄が無いかチェッ クを怠らない	
1.2二酸化炭素 削減 軽油の削減 基準値より 1%減	247980 266388 ℓ	4.7%増加 279,117 ℓ	×	搬入先変更に伴い走 行距離が伸びた	車両毎に消費量を チェックしエコドライ ブの指導を実施する	
1.3二酸化炭素 削減 CNGの削減 基準値より 1%減	41,161 kg	0.1%削減 40,872 kg	○	予定通りだった	現状維持	
2.廃棄物 排出量の削減 (一廃・産廃)	4,449 kg	13.2%減少 3,904 kg	○	減り方に疑問が残る	分別の再徹底と 数値管理を再度確認	
3.水 使用料の削減 基準値より 5%減	4,244 m ³	8.6%削減 3,922 m ³	○	節水用品の見直しと買換 えによる効果が見られた	物理的対策は十分になっ たので、人的な対策を更 に周知	
4.低公害車両 の比率の向上 ①低排出車 ②低燃費車	保有台数に対して 75% 65%	保有台数 164台 117台 (71%) 114台 (69%)	×	○	業務拡大で業務車両3台 が増増となった	重機は出来るだけ電気 式にするなど検討する
5.グリーン 購入の推進 エコ商品の 1%増	22.00%	0.4%減少 19.70%	×	新規事業に伴う備品 購入で適合品が無 かった。	事前の情報収集で出 来るだけ選定してい く。	

購入電力のCO2排出係数：0.531 (2015年度から採用)

2) 環境活動計画の取組結果と評価、次年度の取組内容

1 二酸化炭素の削減

・取組・評価・次年度の取組

〈使用資源の節減に向けた意識強化について〉

- ・削減への行動喚起として、明確な目標を提示
社内で一番消費しているエネルギーの削減

①軽油②ガソリン③CNG

車両用の燃料を削減する事で大きく環境負荷の軽減に貢献できる

- ・ドライレコーダーを全車に設置して運転状況など再確認する
- ・デジタルタコグラフでの運行状況の確認
からぶかし、急発進等があるか確認をし指導する
データ管理を同一担当者が実施。原単位での集計が可能にする
- ・主任会議等で環境管理責任者より実行指導を行う。

〈低公害車、低燃費車の導入について〉

CNG車両の寿命はディーゼルに比べると短い

新型低燃費車の導入も環境貢献のひとつだけど、一台の車両を大切に使う

*委託元からの要望もあり現在使用車両は継続の方向。

〈グリーン購入などへの理解推進について〉

- ・購入品目によっては該当する商品が全くない物もあった。
- ・新規購入品についても事前の情報収集を行い、出来るだけG購入に繋がるように進める。

1.1 電力使用量の削減

結果 ・目標値とはほぼ一致

取組 ・本社屋上に追加設置した太陽光発電も順調だった

・太陽光発電の採用（本社、高崎矢原太陽光発電共に安定発電）

評価 ・太陽光発電採用など社内意識も高まり節電意識向上

・夏場は熱中症などで休業を出さない効果はあった。

・本社では増設をしたが、支店分までカバーできなかった。

・節電に熱を入れ過ぎず、緩め過ぎないようにする必要があった

・暑さ対策は順調だったが、削減活動への時間的のも心にも余裕が少なかった。

・町田支店太陽光電池の効果も順調

次年度の取組 ・啓発の継続と消費傾向の細分化分析を行う。

・前年度の推移を全部署に配布。啓発活動に繋げる

・夏場のエアコンは口中も付けたままにした方が節電に繋がる

1.2 車両燃料の削減（軽油・CNG等）

結果 ・未達成

・安全運行で法令違反なし。

・大幅な増加があり、2回目標値を変更した

・搬送先が変更になり走行距離が伸びたため消費量も増加したと思われる

取組 ・アイドリングストップの実施、ミーティングで周知を図り意識向上。

・車両タイヤ圧管理の実施は始業前点検等で実施中。

・安全最優先の運行は評価する。

次年度の取組 ・運転の仕方そのものにエコが意識できるように指導

・1車両当たりの燃料消費を算出する事で、車両の増減にも対応できるように計画する

・低燃費車量への移行も考えながら旧式車両も長く大切に扱う

2 廃棄物排出量の削減

- 結果 ・達成
- 取組 ・購入品の簡易包装などに努めていた
・適正処理を処理フローから確認は出来た。
・適正分別の強化は、分別ごみ箱利用にて再度対応
- 評価 ・資源物との区別が不足している。
・実績値に疑問が残る
- 次年度の取組 ・可燃・不燃系ごみに混ざっている資源ゴミを更に分別してもらう。
・捨てる側への意識を掲示物などにより更に上げる。
・捨てる際の計量を促すポスターを作る
・制服等の貸与品の扱いを丁寧にする。中古品の再利用等検討
・排出時のチェック方法を再度周知する

3 水使用量の削減

- 結果 ・達成。
- 取組 ・洗車時の節減工夫強化として、時間短縮意識啓発を行う。
・洗淨機を追加で購入
- 評価 ・使用車両、設備の環境維持の為に水は必要不可欠
・時間短縮による節減は逆効果になってしまう
・物理的対応はほぼ尽くした。節水意識を更にもたせる工夫を検討
・町田、小金井の雨水利用は意識づけのためにも継続
- 次年度の取組 ・老朽化に伴った水道管の破綻がないように施設の巡視を行う

4 低公害車両比率の向上

- 結果 ・現状維持
- 取組 ・通常の入替に留まる
- 評価 ・車両の入替は計画的に進めるようになったので、基準を満たす
オーダーが出来るようになってきた
・重機関係は電気式でも対応できるところは検討する
- 次年度の取組 ・環境省優良産廃業者認定基準を採用し目標化する。
・入替検討のタイミングで低公害車も視野に入れて検討する

5 グリーン購入の拡大

- 結果 ・未達成
- 取組 ・全商品（車両以外）を対象とする。
・環境物品選定評価を進めて評価する。
- 評価 ・対象拡大で昨年調査した品目に留まる。
・業務部では月集計が出来ず、最終月まとめとなり途中検証できず。
・総務部では担当者変更など入れ替わり時期で選定できず。
・購入担当が複数のため、実数の集計は非常に困難
- 次年度の取組 ・車両以外の全商品を対象とする。2014年度数値（車両以外）を基準にする。
・新規購入品においては事前調査が必要
・安全最優先として、性能や費用対効果を検証する。
・各担当での情報収集能力の向上を図る。仕入れ先拡大も検討する。

5 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、控訴等の有無

(廃棄物収集運搬業)

2020年4月1日現在

法律の名称	対象事項・設備等	遵守評価
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	一般・産業廃棄物収集運搬業	特に問題なし
東京都・廃棄物の処理及び再利用に関する条例	産業廃棄物収集運搬業	特に問題なし
廃棄物の処理及び再利用の促進に関する条例 (許可市：東京都多摩地区) 調布市、小金井市、多摩市 稲城市、町田市、武蔵野市	一般・産業廃棄物収集運搬業	特に問題なし
特定家庭用機器再商品化法（家電リサイクル法）	廃家電引取・指定引取場所	特に問題なし
消防法	保管積替施設等	特に問題なし
下水道法	車庫等除外施設の設置	特に問題なし
自動車No x ・PM法	収集運搬車両	特に問題なし
大気汚染防止法	収集運搬車両	特に問題なし
道路法	収集運搬車両	特に問題なし
道路運送車両法	収集運搬車両	特に問題なし
道路交通法	収集運搬車両	特に問題なし
電気事業法	太陽光発電	特に問題なし
電気事業者による再生可能エネルギー電気の調達に関する特別措置法	太陽光発電	特に問題なし
都民の健康と安全を確保する環境に関する条例	収集運搬車両	特に問題なし

環境関連法規への違反はありません。

尚、関係当局よりの違反等の指摘は過去3年間ありません。

6 代表者による全体評価と見直しの結果

環境目標の達成状況	電気、水道については前年度より削減できたが、車両燃料の消費が増えた事で全体的には前年度を上回る結果となってしまった。
環境活動計画の実施及び運用結果	最重要課題の車両燃料の増加は新規事業に伴う車両の増加、搬送距離が伸びた事で起きた事だった。 車両単位での消費量の把握。地下タンク、小売りスタンドの利用状況のチェックを更に強化してもらいたい。
環境関連法規などの遵守状況	新しい法令だけでなく、定期的な点検が義務付けられている事への対応も滞ることなく続けてもらいたい。
外部からの環境に関する苦情や要望	台風対策をしっかりと実施した事で、大型台風による被害が無かった。災害はいつ起きるかわからないので日常的にしっかりと点検を実施する事を望む。

車両毎に消費量を把握させるため車両に係わる申請、集計を同一の担当者に任せる事にした。今後は経過観察も含めしっかり行ってもらいたい。

大型台風で甚大な被害を被る地域もあり、行政から緊急出動の要請。その後の被災ごみの回収・処分についても総力をあげて対応し、無事に完結出来た事で大きな成果を得られたと思う。

2020年に入ってコロナウィルスで事業に影響が生じないようにあらゆる手段を講じて対策を立てた。お陰で感染者も出ず業務を遂行出来た事も喜ばしかった。どんな時も止める事が出来ない大切な事業であることを再認識させられた。

二酸化炭素の排出を削減する事ばかりに執着してバランスを欠く事がないように方向を定めていきたい。



CHOFU-SEISO

2020年6月22日
株式会社 調布清掃

代表取締役 梶原 良介